



2月6日松江市エクセルホテル東急ホテル松江で新年会を開催しました。新年会には、会員の外、県や松江市の職員93名の参加を得て、盛大に開催することができました。吉岡情産協代表理事会長の挨拶で、吉岡会長は、業界の技術者不足にふれ、来年度施行する高校生のITクラブ助成制度に触れ、協会としても、将来に向けた人材確保策をとっていくことを述べました。

講演会では、日本政策投資銀行上定松江事務所長に「わがふるさとの誇れるもの」題して講演していただきました。上定氏は松江市東出雲町のご出身です。ご自身の経験も踏まえて、また、海外生活の体験と島根鳥取両県を隈なく見聞され、そのなかから得られた、「外からの視点の大切さ、それによる自らの地域のよさを発見することの大切さ」を訴え



られました。そして、IT活用により、この地域にしながら、ハンディキャップをものとせず、都市部住民を相手にしているビジネス事例の紹介をされながら、不便を逆手にとった手法の必要性を訴えられました。それぞれが個性を持つこの地域の点を線で結ぶ戦略が必要であることも力説されました。過疎化や少子高齢化等様々問題を抱え、困難に直面している地域産業に、ともに考え、解決策を模索し、提示していくことも、この地域のIT業界に託されたミッションの一つではないかと感じさせられた上定氏の講演でした。



続いて、宮本テラテクノロジー社長による、島根県への立地企業の会の活動と東京における最新のIT業界の動向についての話がありました。

AI、ビッグデータ等近年注目されているITをとりまくトレンドについて、宮本社長はいち早く最新技術を取り込む必要があると力説されました。



交流会は、石碕情産協副会長の挨拶で開会しました。多忙な時期にも拘わらず多数の来賓の方々にご出席頂きました。代表して、松浦松江市長、園山島根県議会副議長、山崎しまね産業振興財団理事長に祝辞を頂きました。松浦市長は、市のRUBYCITY構想にふれながら、業界の人材不足に市としても対応していくことを述べられました。園山副議長は、IT産業は県内で数少ない成長産業であり、業界内で待遇改善等の努力をし、人材不足を克服してほしいとの叱咤激励をされました。山崎理事長は、行政と産業の橋渡しをする財団の役割にふれ、財団活動への理解協力を訴えられました。そして、太田島根県商工労働部次長の乾杯の音頭で祝宴に入りました。昨年に引き続き出演してもらったかりゆしバンドの演奏もあり、なごやかで活気あふれる祝宴は、元情産協理事でかりゆしバンドメンバーの今岡氏による島根県民の歌斉唱と井上情産協副会長の閉宴挨拶で閉会となりました。多くの方々に参加頂き、2019年の始まりに相応しい初春の催しとなりました。

